

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第2部門第5区分
【発行日】平成19年6月7日(2007.6.7)

【公開番号】特開2006-143043(P2006-143043A)
【公開日】平成18年6月8日(2006.6.8)
【年通号数】公開・登録公報2006-022
【出願番号】特願2004-337333(P2004-337333)
【国際特許分類】

B 6 1 D 17/20 (2006.01)

【F I】

B 6 1 D 17/20 A

【手続補正書】

【提出日】平成19年4月12日(2007.4.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

鉄道車両同士の連結部の貫通路に備えられ、乗客等の移動を可能にするために該貫通路の床面に渡り板があり、

該渡り板は、鉄道車両の長手方向に平行に配置した複数の平板からなり、

前記複数の平板は、その長手方向の両端部が接続する鉄道車両に端部に載っており、

前記複数の平板は、その長手方向の中央部を幅方向に貫通する連結部材に対して垂直方向に回転可能に連結されており、

前記渡り板は、その幅方向端部を鉄道車両の幅方向に八字状に引っ張られていること、を特徴とする鉄道車両。

【請求項2】

請求項1に記載の鉄道車両において、

前記平板両端の前記鉄道車両端部に接触する部位は潤滑性のある樹脂であること、を特徴とする鉄道車両。

【請求項3】

請求項1の鉄道車両において、

前記連結部材の前記幅方向端部の前記平板は、隣接した平板にばねで押されていること

を特徴とする鉄道車両。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】貫通路を備える鉄道車両

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 2 】

パイプ 8 0 の軸方向の一端の端部板 8 5 はパイプ 8 0 に溶接している。他端の端部板 8 5 とパイプ 8 0 とは別部材である。端部板 8 5 を溶接したパイプ 8 0 にコイルばね 1 0 0 を貫通させ、パイプ 8 0 の他端側を複数の押し出し形材 1 1 0 の一端側からブッシュ 9 0 を貫通させる。他端の押し出し形材 1 1 0 (ブッシュ 9 0) を貫通すると、コイルばね 1 0 0 を配置し、パイプ 8 0 の端部に端部板 8 5 を固定する。パイプ 8 0 の端部のねじ 8 1 に端部板 8 5 のねじ部をねじ込んで固定する。

【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 1 4

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 1 4 】

図 3、図 7 に示すように、押し出し形材 1 1 0 の上面には、滑りとめ材 1 2 0 を貼っている。押し出し形材 1 1 0 の上面は滑りとめ材 1 2 0 の厚さ分凹んでいる。凹部の前記幅方向の端部には凸部 1 1 5 (図 7) がある。この凸部 1 1 5 に沿って滑りとめ材 1 2 0 を張り、貼り付け作業を容易にしている。